

看護師発。暮らしと医療を繋ぐ病院広報誌

ご自由にお持ちください

西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

6月号
2025 No.22



リンクト
LINKED
plus+
病院を
知ろう

SPECIAL REPORT

西尾市民17万人の
安心を守る病院として
新院長就任特集

CONTENTS

- 1 Cure 病気のおはなし
- 2 Care 患者支援のおはなし
- 3 地域医療を支える新しい力
- 4 地域医療の豆知識
- 5 NEWS & TOPICS

Message

院長メッセージ

2025年4月に院長を拝命し、市民の皆さんの安心を支える責任の重さを日々実感しています。救急から生活期までを支える体制の整備や災害への備えを進め、職員と共に信頼される病院づくりに取り組んでいます。

本特集では、私の思いや今後の方針をお伝えしております。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

西尾市民17万人の 安心を守る病院として

新院長就任特集

田中俊郎院長が語る、 西尾市民病院の役割と将来ビジョン

CHAPTER 01 急性期から生活期まで 担う病院として

— 院長に就任されて数カ月ですが、院長職を引き受けられた当初の率直な思いをお聞かせいただけますか。

田中 最初は自分が果たして院長という重責を果たせるか、不安でした。しかし、当院は絶対にこの地域に必要な不可欠な存在です。維持していかなくてはなりません。やるとなれば全力で邁進するしかない。そう覚悟を決めてお引き受けしました。

— この地域に必要な病院として、どんな役割が求められているとお考えですか。

田中 第一に、救急を含めた急性期医療だと考えています。同じ医療圏に三次救急に対応する高度急性期病院が二つありません。また、南海トラフ地震も予測される中、災害拠点病院としての責務を果たすためにも、西尾地区の二次救急としてしっかりと対応し、市民の皆さんの命を守ることが当院の重要な使命です。そして、いざという時に緊急対応するには、普段から診療科全般にわたり質の高い診療を提供する体制を構築しておかないといけません。診療の質という点では、この4月から常勤医不在だった泌尿器科に2名の医師を迎えることができ、低侵襲のロボット支援手術の運用に向けて準備を進めているところで、今後も必要に応じて、こうした先進的

な医療を積極的に導入していく計画です。— そのほかに、どんな役割を担っていくお考えですか。

田中 急性期を脱した後の生活期まで包括的に患者さんを支えていくことも当院の重要な役割だと考えています。そのため、患者さんのスムーズな退院を支援する（地域包括ケア病棟）を二病棟運営しています。ここでは在宅療養中の急変やご家族の介護負担を軽減するためのレスパイト入院にも対応し、療養中の方々を支えています。また、2024年度から訪問看護ステーションを開設し、退院後の療養生活の支援に力を入れています。こうした機能を今後さらに充実させ、市民の皆さんが病気になるっても安心して暮らしていける地域医療体制をつくっていきたいと考えています。

COLUMN

● 社会や地域のニーズに即した病院を建て替えるには、単に建築的なアプローチだけでなく、病院のコンセプトを再検討することが重要になる。

● まず病院を内側、外側から見つめ直して現状を分析し、病院の強みや課題を洗い出し、病院のあるべき姿を規定する。その上で診療科目、検査設備や病棟構成などを過不足なく設計し、基本構想を策定していかなくてはならない。西尾市民病院は今年、その大切な一歩を踏み出そうとしている。



親生まれ、信頼される 市民病院をめざして

—その一方で、病院を取り巻く環境はますます厳しさを増していますね。

田中 診療報酬の改定や人件費の増加など、当院のような地方の病院はより厳しい環境に晒されています。しかし、院長を引き受けたからには、決して逃げ腰にならず現状と向き合い、打開策を模索していきま

す。特に深刻な医師不足については、以前から大学医局などに医師派遣をお願いしているほか、近隣の高度急性期病院にも援助をお願いしています。たとえば緊急手術の多い脳神経外科では、高度急性期病院から医師を派遣していただき、救急にしっかりと対応しています。こうした連携をもっと強化していきたいです。また、当院は臨床研修病院として研修医の育成に携わっていますが、今後さらに若手医師の獲得にも尽力していく方針です。

—設備の拡充についてはいかがですか。

田中 当院は移転新築から35年が経っています。病院の建物の寿命は約50年といわれますから、あと15年で建て替え時期を迎えます。その建て替えに備え、新病院の構想を固めていこうと考えています。まずは当院のあるべき姿を定め、病床数や診療体制、必要な医療機能を具体的に検討していく計画です。

—最後に、職員や市民の皆さんにメッセージをお願いします。

田中 当院の良さは、ほど良い規模で風通しのいいところにあります。その良さを生かして職種を超えた協力体制をさらに強化し、よいチームワークを発揮していきたいと思えます。また、2024年度はコロナ禍で中止していた「病院フェスタ」を開催し、予想以上の好評をいただきました。今後もこうしたイベントを通じて市民の皆さんとのコミュニケーションを育てていきたいです。日常の診療でも接遇や対応の質を高め、親生まれ、信頼される病院づくりに注力してまいります。

BACK STAGE

地域の未来を守る 社会的使命をもって

●西尾市民病院は、二次救急病院のほか、臨床研修病院、災害拠点病院(愛知DMAT指定医療機関)など、いくつかの重要な社会的使命を担う。特に、この地域は南海トラフ地震で甚大な被害を受けることが想定されており、災害時に西尾市民の命を守るといふ重要な使命を持つ病院といえるだろう。

●同院の職員たちはそれらの多くの使命を胸に刻み、高齢化の進む西尾市の未来を守ってこうとしている。



キュア
Cure

病気の おはなし

先生、
教えて！



テーマ

高齢者に多い排尿障害

高齢者に多く見られる排尿の悩みに対し、
専門チームが連携しながら
丁寧な支援を行っています

01 年齢のせいと諦めず 泌尿器科にご相談を

排尿は、1日に何度も繰り返す行為であり、生活の質(QOL)に直結する重要な問題です。しかし、加齢とともに、男女を問わず排尿に関するトラブルが増えていきます。男性では、尿の通り道にある前立腺が年齢とともに肥大し、「尿が出にくい」「トイレが近い」などの症状を引き起こします。一方、女性では、出産や加齢による筋力低下により、内臓を支える骨盤底筋が衰え、尿もれや切迫した尿意といった症状が生じます。

このほかにも、日常生活動作(ADL)の低下や糖尿病、自律神経の障害などが排尿機能の悪化に関与します。尿の悩みは人に相談しづらいため、長年悩まれて受診に至るケースも少なくありません。

加齢による変化を完全に防ぐことはできませんが、泌尿器科では、最新の薬や手術など、症状を和らげる治療をご提案できます。反対に、放置すれば症状は悪化し、治療の効果も得にくくなることがあります。

02 尿のトラブルから 大きい病気が見つかることも

排尿トラブルが、思わぬ重大な疾患の発見につながることもあります。腎がんや膀胱がんなど、尿路にできるがんは血尿をきっかけに発見されることが多くあり

ます。また、前立腺がんは自覚症状に乏しく、気付かれにくい病気ですが、男性に最も多いがんです。定期的に泌尿器科を受診することで、早期発見につながる可能性があります。当院泌尿器科では、ロボット支援手術、放射線治療、抗がん剤治療など、さまざまな治療法に対応しており、患者さん一人一人に合わせた最適な治療を提供しています。治療後の排尿機能についても継続的にフォローいたします。「ただの排尿トラブル」と見過ごさず、少しでも気になる症状があれば、どうぞ遠慮なくご相談ください。



Message

医師からのメッセージ



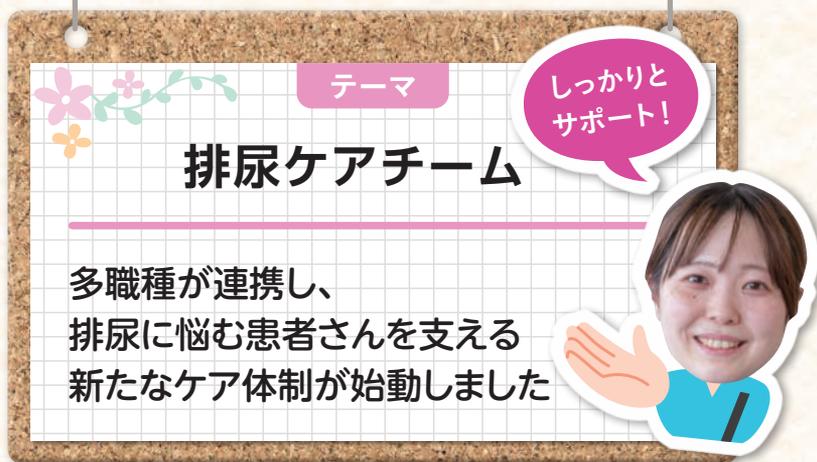
泌尿器科
小林 郁生(泌尿器科部長)
白井 阿子

2025年4月から泌尿器科の常勤医師2名が着任しました

当院では、2025年4月から泌尿器科に常勤医師2名が着任し、外来・入院・手術まで一貫した診療体制を整えました。女性医師も在籍しており、女性特有の排尿に関するお悩みも、安心してご相談いただけます。

また、当院泌尿器科では、排尿障害への対応に加え、他の疾患で入院されている患者さんへの排尿支援にも力を入れています。手術や治療によって体力が低下すると、膀胱の機能も一時的に低下することが少なくありません。患者さんが退院後に安心して日常生活へ復帰できるよう、医師・看護師・リハビリスタッフが連携し、「排尿ケアチーム」(詳しくは右ページ参照)として入院中から退院後まで継続的に支援を行っています。

患者支援 のおはなし



01 専門チームで実現する 質の高い排尿ケア支援

当院では、2025年4月から、西尾市民病院に常勤の泌尿器科医2名が着任したことを契機に、「排尿ケアチーム」を新たに立ち上げました。医師を中心に、皮膚・排泄ケア認定看護師、理学療法士、作業療法士など多職種が連携し、排尿に困難を抱える入院患者さんを対象に週1回のラウンドを実施しています。当チームでは、排尿状況の観察や薬剤の調整、身体機能の評価を通じて、患者さん一人一人に適した支援を行っています。病棟看護師が気付いた排尿トラブルを気軽に相談できる体制も整備し、専門的な対応がより迅速に行えるようにしました。より多くの患者さんに質の高い排尿ケアを提供で

きる体制づくりを進めています。

02 日常生活の質を高める 排尿支援のかたち

排尿ケアチームが目指すのは、単なる医療処置ではなく、患者さんの尊厳と快適な日常生活を守る支援です。排尿は日々の生活に深く関わる営みであり、心身の負担や羞恥心を伴うデリケートな課題でもあります。これまで、排尿障害への十分な対応が難しく、尿道留置カテーテルが入ったまま退院せざるを得なかった

患者さんも少なくありませんでした。排尿ケアチームでは、カテーテルの必要性を慎重に見極め、不必要な留置をできる限り避けることで、患者さんが自分の力で排尿できる状態を取り戻すことを重視しています。また、認知症のある方や意思表示が難しい方に対しても、仕草や表情から排尿のサインを丁寧に読み取り、定時誘導やタイミングを見計らって対応します。さらに、退院後は訪問看護師や外来の認定看護師と連携し、自己導尿の継続や家族への指導など、在宅生活を見据えた切れ目のない支援体制を整えています。



Message

私たちが支援します



皮膚・排泄ケア認定看護師
特定認定看護師
長谷部 純子

入院中も退院後も、継続的にサポートしています

排尿ケアは、生活の質やその人らしさを支える、重要なケアの一つです。特に高齢の方や認知症のある方にとっては、排尿に関する困り事をうまく言葉で伝えることが難しい場合もあります。そうしたときこそ、看護師が患者さんの行動や表情、しぐさなどから排尿の兆しを丁寧に読み取り、そっと寄り添う姿勢が求められます。当チームでは、医師やリハビリスタッフと連携しながら、患者さん一人一人に合わせたきめ細やかな支援を行っています。入院中だけでなく、外来や訪問看護も含めた退院後の生活まで視野に入れた継続的なサポート体制を整えていますので、遠慮なくご相談ください。

地域医療を支える



新しい力

チカラ

対談企画

先輩看護師

新人看護師

私たちの
仲間をご紹介

経験を力に、一歩ずつ確かな看護師への道を歩む



看護師として成長するために大切な姿勢や
支えについて教えてください。

工藤 私は1年目のころ、患者さんの痛みや苦しみに寄り添いたいという気持ちが先行して、「無理はさせたくない」と考えてしまいがちでした。でも、外科では術後のリハビリや離床が重要な場面も多く、あえて「動きましょう」と伝えることが患者さんの回復に必要なこともあるのだと学びました。

黒柳 本当ですね。やさしさだけでなく、正しい判断が必要なのもありますよね。私も、看護師は資格を取ったら終わりではなく、日々が勉強だと実感しています。当院の4東病棟は、外科・脳神経・泌尿器・形成・皮膚科の5つを担当しているので、疾患も多彩で本当に学ぶことが尽きません。

工藤 特に最近、ロボット支援手術も始まりましたし、術後の管理も新しい視点が求められますね。

黒柳 だからこそ、私は新人のときに尊敬できる先輩を見つけて、その人の働き方を真似しながら学びました。そうした「目標となる存在」がいると、日々の励みになりますよね。



後輩を支える役割と、
これからのキャリアについてお聞かせください。

黒柳 私自身、4年目になってから少しずつですが、後輩と関わる機会も増えてきて、これまで自分が教わってきたことを、今度は伝える側にならなければと感じています。実は今、ストーマのマーキングに関する資格取得も検討していて、外科の専門性を少しずつ深めていきたいと思っています。

工藤 黒柳さんは、後輩が困っているときにさっと声をかけてくださるので、本当に心強いです。

黒柳 ありがとうございます。私が一番大事にしているのは、「一つ一つを丁寧にやること」です。たとえ短い入院期間でも、信頼関係が築ければ、患者さんから思いがけない話をいただけることもあります。

工藤 私も最近になって、「わからないことをそのままにしないでちゃんと聞く」ことが、患者さんに安心してもらえる看護につながると実感しています。周囲にそうした雰囲気をつくってくれる先輩がいるからこそ、安心して学んでいるんだと感じます。

先輩看護師(4年目)

黒柳朋香(くろやなぎともか)

愛知県西尾市出身。歯科助手を経験したのち看護師の道へ。旅行とライブが趣味です。

新人看護師(2年目)

工藤美結(くどうみゆ)

愛知県刈谷市出身。祖母の介護経験を機に看護師を志願。休日はドライブでリフレッシュ。

※入職年数は取材当時のものです。



患者さんや後輩と丁寧に向き合い、信頼される看護師であり続けたいです。



小さな変化にも気付けるように、先輩から学びながら一歩ずつ成長していきたいです。

こんな言葉知っていますか？

地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ

看護師の人材育成

今回は
〈看護師の人材育成〉に
ついて学びましょう



学生から新人へ、 看護師としての一步を支える 実践的な学生指導体制

看護師の育成には、知識や技術の習得だけでなく、安心して学び、挑戦できる環境づくりが欠かせません。西尾市民病院では、学生一人一人の理解度や性格、成長段階に応じた丁寧な指導を行い、看護のやりがいや意義をしっかりと伝えています。臨地実習の現場では、「学生の自己紹介カードをスタッフ全員で共有する」「質問しやすい雰囲気づくり」など、実習生が歓迎されていると感じられる環境整備を心掛けています。また、学内では経験できない患者さんとの直接的なコミュニケーションや実践的な看護ケアを重視し、現場でしか得られない気付きや課題に向き合えるようサポートしています。さらに、指導者自身が学生にとってのロールモデルとなり、専門用語をわかりやすく伝えたり、例え話や具体的な数字を交えたりすることで、実感を伴った深い学びへとつなげています。



西尾市民病院では

一人一人の成長段階に応じた支援で、成長を後押しします

西尾市民病院では、看護師の人材育成において、学生から新人、そして独り立ちするまでの成長段階に応じた、切れ目のない支援体制を構築しています。新人看護師には、配属前に手術室や救急外来を含めた全病棟を2日ずつ見学・体験できるローテーション研修を実施。多様な現場を実際に体感し、自身の適性を確認した上で、自分に合った部署を選択できるようサポートしています。また、新人教育を担当する副主任が中心となり、1カ月半の手厚い実技研修を行うことで、新人に寄り添った継続的な成長支援と信頼関係の構築を行っています。この仕組みにより、配属後のギャップやリアリティショックを軽減し、定着率の向上にも寄与しています。さらに新人研修は1年間を通じて定期的開催され、成長段

階に応じた専門知識の習得や、その都度生じる悩みや不安を解決するための支援も行っています。また、副主任と実地指導者が連携し、日常的に新人に声を掛けたり困りごとの相談に乗ったりするなど、職場全体で新人を支える体制を整備。これにより新人看護師は早期に職場へなじみ、自信を持って看護を実践できるようになります。育成に真摯に向き合う現場の姿勢が、質の高い看護の土台を支えています。

臨床実地指導者
新人教育担当者
大河内 阿美



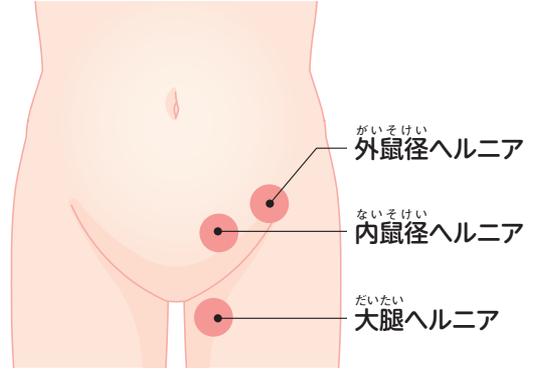
2025年4月にヘルニアセンターを開設しました。

西尾市民病院では、成人の鼠径部ヘルニア(脱腸)に対する専門的な治療体制を強化するため、ヘルニアセンターを新たに開設しました。

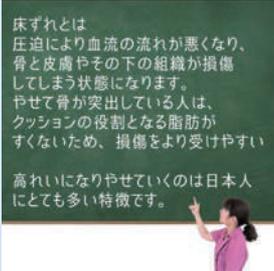
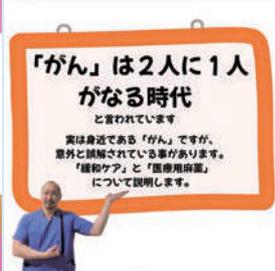
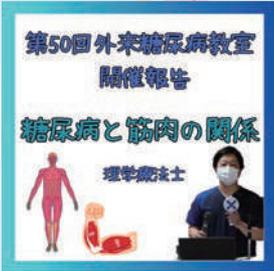
鼠径部ヘルニアは、足の付け根に柔らかい膨らみが現れるのが特徴で、初期には痛みがないため放置されがちですが、進行すると腸が戻らなくなり、腸閉塞や壊死といった重篤な状態に陥る可能性があります。当センターでは、主に腹腔鏡を用いた低侵襲手術を実施しています。おへそと下腹部に小さな穴を開け、内視鏡を用いて患部に適切な大きさのメッシュをあてがい、ヘルニア門を閉鎖する方法で、傷が小さく術後の痛みも少ないのが特長です。短期間で社会復帰が可能であり、多くの患者さんから好評を得ています。

当センターでは、日本内視鏡外科学会の技術認定医である外科部長 荘加道太医師を中心に、より精緻で安全な治療を提供しています。成人の鼠径部ヘルニアでお困りの方は、お気軽にご相談ください。

足の付け根の膨らみ、ヘルニアかも？

公式SNSで
西尾市民病院の
魅力を発信！

フォロー、いいね! よろしくお願ひします!



西尾市民病院では、各種公式SNS (Instagram、Facebook) を開設し、地域の皆さんにさまざまな情報を発信しています。

新着情報、イベント情報、病院職員採用に関する情報など、西尾市民病院の魅力を多くの方にお伝えしたいと思います。ぜひご覧ください。

西尾市民病院公式SNS

Instagram



Facebook



西尾市民病院

検索

西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171(代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>

Ciao

6月号 No.22

発行責任者/院長 田中 俊郎

発行/西尾市民病院

編集協力・記事提供/プロジェクトリンク事務局

発行日/2025年6月30日